

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：1,000円（4月より）
お問合せ：03-6684-6692

- 4月11日（土） コロナウイルス対策のため延期
5月9日（土） コロナウイルス対策のため延期
6月13日（土） これからの仏教 加藤みち子 先生 東方学院講師
9月12日（土） これからの仏教 竹村牧男 先生 東洋大学学長
10月10日（土） これからの仏教 木村清孝 先生 東京大学名誉教授
11月14日（土） これからの仏教 阿満利麿 先生 明治学院大学名誉教授
12月12日（土） これからの仏教 佐藤 研 先生 立教大学名誉教授
1月16日（土） これからの仏教 本多弘之 先生 親鸞仏教センター所長

大阪 時間：午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階会議室（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 お問合せ：06-6346-7000

5月15日（金） コロナウイルス対策のため延期

いのち尊し

宗教と労働

ドラッカーの宗教観から

常包芳樹（協会会員）

第36号
いのち尊し
令和2年4月1日
公益社団法人 在家仏教協会
〒101-0062
東京都千代田区 神田駿河台3-3 五明館ビル202号
TEL 03-6684-6692
FAX 03-6684-6709

『大法輪』誌二月号に「企業活動と宗教」と題した講演録が載っている。会社生活の後に僧侶となつた柴田文啓氏の講話である。海外でのビジネス経験を含め、自身の仕事を振りかえりつつ、仏教の考え方が活かされたとされ、最後は『宗教的理念なき企業は消え去っていく』と結ばれている。

『企業にとって宗教は必要』との見方に関連して、私も想像を巡らせた。経営学者ドラッカー博士に、もしこの見解について意見を求めたら、どんな答えが返ってくるのか。「宗教理念の内容に一定の条件をつけるとの前提で、基本的にこの見方に同意する」。こんな回答になるかと思う。

ドラッカーと言え、経営理論を構築した学者であり、経営コン

サルタントとして指導にあたった人物との印象が強い。しかし、活動領域は経営学に収まらない。博士が世に知られるきっかけは、ヒッラー率いる全体主義の危険性を告発した社会批評だった。ナチスの勢力が拡大する中で、人間の自由が抑圧されることを恐れた。その後米国へ脱出し、戦後は企業を

中心にした産業社会の発展を構想した。研究の中で強く意識されたのは企業での「個人の位置と役割」で、著書には再三この言葉が出てくる。そのこだわりの下には、人間の自由があった。全体主義が招いた悲劇を繰り返さないとの思いが強かったと思われる。

この自由に関してこう断言している。『自由の基礎となりうるものは、西洋ではキリスト教の人間観しかない』（ダイヤモンド社

『産業人の未来』140頁）。若き時代に学んだ福音書やキリスト教神学思想が博士の内面に刻まれていたようだ。人間を不完全なものとする一方で、経済偏重の方向で自由を謳うことの危うさを指摘してもいる。近代人があまりに物質面を重視したために全体主義を許してしまったと判断したようだ。デビュールの著書のタイトルは『「経済人」の終わり』であった。自由には責任や義務が伴うと考えたところも博士の自由論の特徴で、自らを保守主義者と規定している。

他方、宗教を手放しで肯定しているわけではない。ファシズムの暴走を止められなかった教会を批判してもいる（ダイヤモンド社『「経済人」の終わり』四章）。産業社会への移行が進む中で、これに対応する方向での改革ビジョンを示せなかった宗教勢力と、教会指導者の体質を糾弾している。

経営に関する著書には、宗教観を感じさせる言葉はあまり使われていない。しかし、企業の発展と

個人の自由を両立させたいとする博士の願いの中に、キリスト教思想の影響があったことは間違いない。自分の活動を振りかえってこんな言葉も残している。

『仕事は、社会や社会秩序やコミュニティを規定する中心的な要因であることが明らかになってきた。私には一方の極に偉大な思想、特に宗教があり、一方の極には仕事の仕方があって、ここでもまた、社会は、二つの極のあいだの緊張関係によって支えられていることが、ますます明らかになってきた』（ダイヤモンド社『すでに起こった未来』307頁）。

人間の自由は焦点を当てたドラッカーの経営思想は、西欧の歴史とキリスト教思想の土壌の中で生まれてきた。日本の文化伝統の中ではどうなのか。本来の自己を深く究明し、自由で闊達な生き方を求めた禅の思想が思い当たる。煩惱多き自己に気づき、人間の限界を自覚しながら、本願思想の中に光を見出す浄土教思想も参照できる。戦後の経済復興期には、仏教の智慧を経営理念に取り入れて活躍した経営者も少なくなかった。宗教は労働を支える大切な背骨だと改めて思う。

この一冊

立川武蔵著「三人のブツダ」春秋社

上村隆利 (協会会員)

皆さんは、仏像をご覧になって不思議に思ったことはありませんか。阿弥陀如来や薬師如来など、たくさんの仏様がいらっしゃいます。では、それぞれの仏様は、どのような役割を持っているのでしょうか。著者の立川武蔵先生は、その中でも、釈迦仏、阿弥陀仏、大日如来の三人のブツダにスポットをあて、これら性質の異なる三人の仏様がどうして大乘仏教という一つの枠組みの中に生まれたかを示

しておられます。そして、それぞれのブツダが生まれた歴史的背景と崇拜の形態、自分(自己)とのかかり方から以下のように考察されました。

初期仏教では「釈迦」は偉大な教師であり偉大な先達であって、修行者の魂の救済者ではありませんでした。戒律を守って修行を積むことによって悟りを得ると教えられました。

一方で、紀元前一、二世紀のインド仏教に信仰形態の大きな変化が見られました。修行のモデルの「釈迦」から魂の救済者である「阿弥陀」への変化です。「阿弥陀経」「無量寿経」など浄土経典には、阿弥陀崇拜による帰依によって精神的救済が可能であると述べておられます。阿弥陀は「自分の

名前を唱えたものは必ずわたしの国、極楽浄土に生まれる」と約束します。

また、インドには五世紀ごろには密教的要素を含む大乘仏教が生まれました。密教の中でもっとも重要な仏のひとり「大日如来」なのですが、この仏は娑婆世界に住む仏であります。

さて、仏様は一般的に「法身」「報身」「化身」の三身として説明されます。「化身」である釈迦は歴史の中に身体を持って現れて、法を歴史の中で示しました。阿弥陀と大日如来は同じ「報身」でも、阿弥陀のエネルギーはこの汚れた世界を否定して「俗なるもの」を浄化しようとして進みます。一方、あくまでも娑婆世界において、世界を浄化しようとするのが大日如来である、と述べておられます。

修行者にとつての偉大なる指導者であった「釈迦」、浄土という聖なる「時」を描き私たちの魂の救済者として登場した「阿弥陀」、そして、娑婆の中で衆生を救う「大日如来」。長い年月をさまざまに顔をもちて衆生とともに歩んだブツダは、私たちの人生の中のさまざまな局面で生ずる「苦」を救って下さる仏様だと思えました。

原稿をお待ちしています

◇「仏教と私」(八百字以内)
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動をお書きください。
◇読者からの手紙(八百字以内)
講演会(講演録)の感想などをお書きください。

◇コラム「この一冊」(八百字以内)

感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思いつきの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*

原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、よろしければ職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用分には薄謝をお送りします。原稿の送り先は、〒101-0006 東京都千代田区神田駿河台三二二 五明館ビル 二〇二 在家仏教協会「いのち尊し」係。メールはkaminura@zaikobuk.kyo.comまで。

四月・五月の在家仏教講演会はコロナウイルス感染拡大のため、延期させていただきます

四月十一日(土) 東京会場 中野サンプラザ
五月九日(土) 東京会場 中野サンプラザ
五月十五日(金) 大阪会場 堂島アバンザ

月刊誌「大法輪」休刊にともなう会員の皆様への対応について

◆機関紙「いのち尊し」に講演録をプラスした小冊子を七月よりお届けします

◆正会員年会費を八千円にお戻しします

◆退会希望の皆様には、七月以降の会員の残期間分を払い戻しします

有限会社大法輪閣は、月刊誌「大法輪」を七月号(六月一日発行)をもって休刊すると発表しました。「大法輪」は、在家仏教協会が発行する月刊誌「在家佛教」休刊の後、在家仏教講演会の講演録を掲載し、協会より会員の皆様にお届けしてまいりました。

「大法輪」休刊による対応として、講演録をお読みいただくために、機関紙「いのち尊し」に講演録を加え、小冊子にリニューアルしお届けいたします。また、講演会の動画配信は、新規の講演を増やし充実させる予定です。年会費は、今年の四月より一万

円に値上げしたばかりですが、これまでの八千円にお戻しいたします。すでに、一万円をお振込みいただいた皆様には、二千円を払い戻しいたします。

正会員の皆様には大法輪の定期購読を目的に入会されている方がいらっしゃると思いますので、お手紙にて会員継続の有無をお尋ねし、退会を希望される皆様には、七月以降の会員の残期間分を月割り計算の上(千円未満四捨五入)払い戻しいたします。継続いただける方は、これまで同様、更新月の前月にリコーリース社より振込用紙をお送りいたします。

返信はがきのご投函を宜しくお願いいたします。

ご寄付のお願い

当協会は、東京、大阪にて講演会活動を行っておりますが、その多くは寄附金によって賄われております。講演会の存続のために温かいご支援をお願い致します。協会への寄附金は税制優遇が受けられます。個人様からの寄附と法人様からの寄附について、事例を上げてご案内いたします。

★所得税

所得金額から「寄付金(所得金額の40%が限度)2,000円」を控除することができます。

事例

年中の総所得金額が500万円、寄附金の合計額が20万円の場合、20万円×2,000円=19万8,000円が、総所得金額より控除されます。

★法人税

法人が支出する寄付金は、その法人の資本金等の額、所得の金額に応じた一定の限度額までが損金に算入されます。このとき、公益法人に対する寄付については、一般寄付金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられております。

事例

資本金が10億円、年中の所得金額が1億円の場合
①一般損金算入限度額Ⅱ(10億円×2.5/1000)+ (1億円×2.5/100)×0.25
Ⅱ125万円
②別枠の損金算入限度額Ⅱ(10億円×3.75/1000+1億円×6.25/100)×0.5
Ⅱ500万円
したがって、①②の合計額625万円の損金算入が認められます。